
この戦いを終わらせるために__立ちむかえ__

相川薫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この戦いを終わらせるために――立ちむかえ――

【Nコード】

N0281Y

【作者名】

相川薫

【あらすじ】

戦うことには意味がある、意味がなければ戦わない
邪魔な物は排除せよ

決して諦めない心、何度でも立ち上がる気合い、俺達は歩き続ける
血を流した分だけ強くなる。やられた分だけ弱ってしまうそれなら
上回ればいいんだ

そうして俺達は強くなる 俺達を襲う敵に立ち向かうんだ
今しかない・・・俺達の力で

今、新たな一歩を歩み出す 仲間と共に・・・

戦うんだ――この命が果てても。

大げさになりましたが旅でもあり戦いでもあり。という物語にする
予定です。
詳しい説明は内容を見てください

設定

稲妻というギルド？とバイオというギルドがあります！
その主な登場人物を書きます！

稲妻 ボス円堂守

神童拓人

松風天馬

西園信助

三国太一

浜野海士

速水鶴正

影山輝

一乃七助

白竜

風丸一郎太（大人・策を考えてくれる人）

基山ヒロト（" 情報収集）

音無春奈（" 治療薬・受付？）

吹雪士郎（" 武器作り）

バイオ ボス 豪炎寺というか聖帝化しています。それは皆知つてます。

剣城京介

霧野蘭丸

狩屋マサキ

南沢篤志

倉間典人

青山俊介

シュウ

雅野麗一（帝国学園のキーパー）

波川蓮助（海王学園のキャプテン）

鬼道有人（大人 策考える）

不動明王（" 武器作り）

緑川リュウジ（" 情報収集）

久遠冬花（" 治療薬）

以上です！他にも色々でてくる・・・かもw

バイオだからって全体的に空気がピリピリしているというわけではないですよ！

イメージが黒系というか浜野みたいにはないですがノリはそれなりにいいです。

初めに。 * 必読

初めに。

相川薫です。知っている方知らない方居ると思いますが初めまして、この小説を読むにあたっての注意です。

全年齢と設定してしまいましたが酷くはならないと思いますがグロテスクな発言や効果音、出来事があると思いますので苦手な方はお引き取り下さい。

キャラがだいぶ壊れている人がいると思います。性格とかあまり気にしていませんがそれなりにあわせています。

色々見苦しい部分あると思いますがどうか暖かい目で見ていただけると嬉しいです、

そして掛け持ち3つです。何故3つ作ったんだと思う方も居ると思いますが自己満足です。

全て自己満足で出来ています↑

なので更新が亀かもしれませんがご了承下さい

少し話がずれてきたので戻しますね。

勿論荒らしは帰ってください

私が未熟なのは解っています、だからって他の方に迷惑をかけるような事はしないで下さい

悪口を言いたいのであれば直接いってください

自己満足で出来ていますが読者の事を考えて書くつもりです

私に悪口を言いたいなら勝手にして下さい

でも迷惑になるようならそれなりに考えます。

読むに当たってまとめてみました

1、迷惑になるような事はしない

2、グロテスクな言葉があるかもしれません

3、キャラ崩壊ある・・・かも？です

4、暖かい目で見てください。冷たい目は痛いです

以上です。

それが大丈夫、守れる方は読んでください。

いつも通りの一日

いつもと同じ朝が来る。暇だなと俺、浜野海士は思った。だけど後々あのときは何て平和だったのだろうと思うことになるとはこの時の俺は知る由もなかった・・・。

それにしても暇だ

仕事を引き受けたいところだが受付が居ないのでクエストにも行けなく、殆どが暇でばーっとしていた

その中神童はなにやらボードに書き込んでいたり忙しそうだったというかよくよく見ればグツタリしてるのって俺だけかもしれないボスは今居ないし。何処に行っちゃったんだろう・・・。速水は音楽聞いているし三国さんは神童の手伝いをしているし松風と西園は盛り上がったるし白竜は武器のチェックしてるし一乃は武器の練習してるし、危ない！ここでやったら！と心の中で思う 影山も一緒にやってるし；；； ・・・とにかくあたりを見回してもひとりぼっち。

ダメだ、俺暇すぎて干からびる・・・とかあり得ない事を考えるようになって来ちゃった。

なんかこうビツクな物があればいいんだけど。

このギルドにはさっき言った奴等の他にも大勢の仲間が居る まあその中でも仲良いのがこいつ等なんだけどな、

「暇だああああああああああ」

「浜野君静かにして下さいよ・・・」

俺が叫ぶと速水が耳につけていたヘッドホンをとってこっちに話しかけてきた。

だって暇なもんは暇なんだからと答えると苦笑しながらこっちに歩み寄ってきた

「いいじゃないですか、いつもクエストばかりで忙しい方なんですから」

「えーだつてさー」

「休まないと体に毒ですよ」

気遣ってくれてるのはたまたまた酷い仕打ちのようだが。

俺がなんて答えるか迷っているといきなり扉が開いた

「ただいまーつつつつ」

大きな声がこの部屋中に響き渡る。

帰ってきたのか。俺達のボスがここにいた皆が振り返る
よくよく見ると同じ身長の人が4人いる。

てことは・・・皆帰ってきたのか！

どこ行っていたんだろうという疑問と共に暇じゃなくなるかもとい
う嬉しさも溢れ出てきた

その感情を今は抑えてボス・・・いや円堂さんに声をかけた

「またサッカーやってきたんすか？」

「え？そうだけど？」

なんていうボスだ・・・いつもいつもサッカーサッカー・・・。

でも、とても強い。俺なんか挑んだら一発でK・Oだ

まあ仲間は大事に思ってる人だからそんなことしないだろうけどな
と俺は心の隅で安心する、この人が敵じゃなくて良かったと。

だからってこのギルド入った訳じゃない。

それなりに皆入ったのには訳がある、俺だっただけある、ふざけた事じ
やなく真面目な理由だ

あまり思い出したくもないのだけれど、向かい合わなくてはいけない
そんなんじゃないつまでたつても弱いままだ、内面が弱ければ戦う力
も弱くなる

内面が強ければ誰にも負けない・・・筈？

まあなんとかなるっしょ！

そしてよく見ると基山さん、音無さん、風丸さんが居た。
ちなみにここには女っぱい人なら居るが女子は極僅かである。

「円堂さん」

「神童？どうした」

「4人で帰ってくるのは珍しいですね。それと・・・なんかあったんですか？」

「ああ、そうなんだ　ちょっと話がある皆を集めてくれないか？」

なんかありそうな予感がしたのは気のせいじゃなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0281y/>

この戦いを終わらせるために__立ちむかえ__

2011年11月12日01時57分発行